

沼田郡定用水筋発起由来伝承書附

定用水引受御扶持人大工

巳之助

覚

一定用水筋発起由来之儀、伝承

居申候間、書頭シ、乍恐御内見ニ入奉申候

一右溝筋発起工夫ニ付、御見分より

前、積年八木渡し場迄休日又ハ雨天

ニ而休日_{ニ者}みの笠_{ニ而}無寒暖極

内々_{ニ而}致見分、用水筋相調候趣

急度受合可申旨、割庄屋嘉兵衛殿へ

申出候処、夫より古市村境より水盛仕候様、

嘉兵衛殿より被申談候ニ付、水盛仕候処、

見込通間違無御座、其後郡辻より

御願被申上候義と伝承居申候、

卯之助義ハ夫より御役所へ直ニ罷出、

用水筋相調可申趣、急度奉申上候処、

御代官様御耳ニ入、直ニ御前へ御呼出シ、

段々御尋被為遊、様子奉申上候、其後

早速御代官沖団五郎様、早見六郎様

御見分ニ御出張被為遊、西原村冬木と

申候所御見分初り、御代官様御膝元

へ御呼寄被為遊、卯之助我用水相調

可申趣、急度御受合可申と申候が、
弥相調可申^ニ間違^ハ無之かと御押
御座候間、当度之用水乗り之義^ハ
間違無御座、急度御受合可仕候、若シ
御不案^ニ被為思召候義^ニ御座候^ハ、私共
首差上可申と申上候、此先キ^ニ而^レ御見分
之廉々御押合被為仰付候様、御願
奉申上候処、御見分之間始終御代官
様御跡^ニ御召つれ被為遊、所々^ニ而^レ御押合
御座候儀^ニ御座候、卯之助義^ハ壺間半
尺枝を持、夫^ニ而^レ樋橋悪水拔等之
仕形迄銘々存分^ニ仕、御見分^ニ入
申候と申候義^ニ御座候、右御見分濟、
八木村十歩一と申候処^ニ而^レ又々出来之義、
我々が申ス^ニ間違無之相見候得共、
弥前段之通受合^ハ間違筋^ハ無之かと
又御押御座候^ニ付、私共間違^ハ無御座候趣、
奉申上候、自然間違御座候得^ハ、私共
身之上如^{（何^{脱カ}）}体御仕置^ニ成被為下候^而も
兎口無御座と奉申上候処、扱々我々が
様成者、此方支配下^ニ出来、如此之通
願出候義^ハ大^ニ安心之事と御代官
様御褒被為遊、早速明日より下手組

仕候様、直^ニ卯之助へ御免許御座候^而、
人夫五拾人之切符と皮^{ニ而}相調

御紙入共被為遣候趣^ニ御座候、此両様共
今に私共方^ニ所持仕候、

一本御免許之義^ハ、^ニ三日之内^ニ遣シ

可申積^ニ候間、下手組之義、早速

取懸り可申と呉々も被為仰付候義

^ニ御座候と伝承居申候

一御免許早速被為 仰付候同四月四日より

御普請取初り、同廿八日出來、翌日

水乗せ初メ申候^{ニ者}、御代官沖団五郎様

古川・西原村境へ御出張有之、卯之助

八木村より御機嫌御窺^ニ罷歸り申候処、

御出張之所^{ニ而}、卯之助我レ先達^而申候義^ハ

間違^ハ有之間敷、此方も今日^ハ

此通りと御申被為成、御腹を明御見せ

被為遊候義^ニ御座候、附添村役人中

感涙を流し候義と伝承仕候、

夫より卯之助八木村へ罷登り、水乗せ初メ

申候処、三丁程も或^ハ要々之所^{ニ而}太鼓

を打、時之声を上、村方役人中

出張、卯之助陣笠・火事羽織^{ニ而}、職人

大勢連、大鼓を打、時之声を上ケ、

瀬先^江付下り、所々^{ニ而}前段之通り大鼓・
時之声大勢見合せ、濁水を吞候と

申候事^ニ御座候、割庄屋衆御三人御出役
人中不残同道^{ニ而}其跡を御下り
被申候と申候事^ニ伝承仕候

一西原村境御代官様御出張之御場所迄

瀬先^ニ付、前段之通^ニ下り申候処、御代官様

是^ハ卯之助手柄と御申被為成、直^ニ溝之

瀬先之濁水中へ御飛込被為遊、夫より

水を御手^{ニ而}御酌ミ、三度御戴キ

被為遊、三口御吞被為成、此水幾々

上下之益^ニ相成、扱々恐悦々々

と御申被為成、夫より御引取被為遊

候義と伝承居申候

一前段之通、水乗始見物之者、村々

溝筋へ老若男女共大勢罷出、感

涙を流し、大^ニ歡申候と伝承居申候

一其当分暫之間、村々百姓中、卯之助

井手と申候様之義も御座候、其後

三十ヶ年位跡迄ハ折々申ス人も

御座候

右之通、私共伝承仕候趣、書頭

奉差上候処、如此^二御座候、以上

西七月

定用水引受御扶持人大工

巳之助

割庄屋

横山直三郎殿

同

甚右衛門殿

同

吉左衛門殿

同

嘉右衛門殿

同
同格

直兵衛殿